

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
横浜リゾート&スポーツ専門学校	平成15年10月28日	坂本 紀典	〒221-0822 神奈川県神奈川区西神奈川1-19-2 (電話) 045-317-9535															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士														
文化・教養	文化教養専門課程	健康スポーツ科	平成17年文部科学省告示第176号															
学科の目的	本校は、学校教育法に基づきスポーツインストラクター等として、健康スポーツ及びリゾートビジネスに従事しようとする者に必要な知識、技能を教授し明日の健康産業、リゾート産業及びレジャー産業を担う人材を養成することを目的とする。																	
認定年月日	平成28年2月19日																	
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技												
2	75	94	14	11	0	116												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
160人	140人	0人	10人	12人	22人													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法とする。教科毎に定められた評価方法で評価する際、100点法で素点を出し、それを20で割り、四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮し、1ランクの上下を認める。														
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～3月31日		卒業・進級条件	教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績および品行を斟酌して認める。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談等を実施し、常に状況を確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。		課外活動	■課外活動の種類 各種ボランティア活動 ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) フィットネスクラブ業界を主として、幼児体育・介護予防業界、サッカー・テニススクール等 ■就職指導内容 履歴書指導・面接指導・求人斡旋 ■卒業者数 70 人 ■就職希望者数 68 人 ■就職者数 68 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 97 % ■その他		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導</td> <td>②</td> <td>47人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>赤十字救急法救急員</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	健康運動実践指導	②	47人	20人	赤十字救急法救急員	②	18人	18人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
健康運動実践指導	②	47人	20人															
赤十字救急法救急員	②	18人	18人															
中途退学の現状	■中途退学者 5 名 平成29年4月1日時点において、在学者140名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者135名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・個人面談を実施し、個々の悩みを早期発見、解決する ・欠席が続く生徒については、早い段階での保護者への電話を行い協力を仰ぐ ・入学前後でのギャップを埋めるため、入学直前に入学予定者向けに保護者向けに学校生活や実習、就職等の説明会を行っている		■中退率 9.6 %															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 日本学生支援機構の奨学金を利用しながら、学費を分納して支払う制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																	
当該学科のホームページURL	http://www.sanko.ac.jp/yokohama-sports/course/sports/																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- ①「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
- ②「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ③「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ④「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

- (1)「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
- (3)「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。
- (4)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

主に生徒の就職先となる業界を牽引する企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い実践かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は横浜リゾート&スポーツ専門学校と企業関係者等の役職員(以下、外部委員)から成るものとし審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な教育課程の編成過程は以下の通り。

- ① 教育課程編成の基本方針案取りまとめ・課題解決に向けた意見集約
企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関した動向や新たに必要とする人材スキル等の業界の実情をヒアリングした上で委員会で教育課程編成の基本方針を討議し、次年度以降の方針案を取りまとめる。さらに本校の抱える課題をピックアップし外部委員からの見識のある改善意見も集約する。
- ② 教育課程編成の科目詳細決め
委員会構成員の中の横浜リゾート&スポーツ専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。
- ③ 各専門委員会に設置したRS(リゾートアンドスポーツ専門学校)委員会にて教育課程編成の決定
委員会構成員の中の横浜リゾート&スポーツ専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、各専門委員会であるRS委員会で改善の有効性を討議し、次年度以降の教育課程を決定する

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
園山 忠	有限責任事業組合 オフィス園山 代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日	①
清水 忍	株式会社インストラクションズ 代表取締役	平成29年4月1日～平成31年3月31日	③
斎藤 政臣	横浜リゾート&スポーツ専門学校 副校長		
三澤 麻衣	横浜リゾート&スポーツ専門学校 主任		
阿部 弥生	横浜リゾート&スポーツ専門学校 主任		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (1回目:10月下旬～11月中旬、2回目:1月中旬～下旬)

(開催日時)

第1回 平成30年10月下旬～11月中旬

第2回 平成31年1月中旬～下旬

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員の方からいただいた意見を担任会議にて共有。周知を図り全体会議にて共有し、日常からの生徒指導に生かす。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実務卓越性を目指した教育課程における技能、技術の向上、業界において必要とされる知識、ならびに職業観を育むに足りる新技術、知識の習得を目指した職業実践的教育の実施を目的として、スポーツビジネス業界で第一線で活躍されている企業様と連携し専門的な知識を持ち、実務経験豊富な講師の下、授業を行う。その際、以下の点を考慮する。

- ①授業の内容は企業がOJTとして行っている内容を学生用にアレンジしたものとし、即戦力として活躍するために必要な能力を高めるものとする。
- ②他科目の学習進度を把握した上で授業を展開し、知識や技術のアウトプットを繰り返し求めることを通じて学習の定着を促進する。
- ③スポーツをビジネスとして多面的に客観的に捉え、自らスポーツ業界で活かしていく知識としてのスポーツビジネスを理論的に理解する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

スポーツをビジネスとして多面的に客観的に捉え、自らスポーツ業界で活かしていく知識としてのスポーツビジネスを理論的に理解する為に各企業様にお越し頂き業界についての講話を頂く。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
スポーツビジネス実践Ⅲ	コース専門科目の学習内容を踏まえて実務的な観点からスポーツビジネスの総合的な理解を深めていく。	有限会社フリースタイル 他

<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p> <p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 研修についてはフィットネス業界を中心とした現状の把握と今後の業界の変化に対応すべく、可能な限り早期の情報収集と共有に 向けての研修を目的としている。研修で学んだことを即座に学生教育へ反映し、業界における最新の情報を習得できるカリキュラム 編成や学習方法で即戦力として業界において活躍できる人材の育成に努めている。</p> <p>(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 【研修名】トレーナー業界の現状と未来 【連携企業】株式会社 R-bodyproject 鈴木様・新井様 【期間】平成30年8月23日9時～12時30分 【対象者】全国リゾート&スポーツ専門学校常勤職員向け 【内容】トレーナー業界についての変動や今後業界で求められている人材についてや、トレーナー業界についての研修を実施して頂いた。 ②指導力の修得・向上のための研修等 平成30年7月12日(木)9:00～11:00 株式会社 ナズー/スポーツマッサージ・ナズー様にお越しいただき、トレーナー業界についての理解を深める為担任教員に対し研修を実施いただく。</p> <p>(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 スポーツ業界(フィットネス、スポーツビジネス関連)の方をお招きし、平成31年3月または8月に全教員に対して実施予定 ②指導力の修得・向上のための研修等 業界のニーズに合わせた人材育成を行うために日頃から教員として意識すること。 またアクティブラーニングを絡めた実践的な研修を実施。(ロールプレイ含む)</p>																																																	
<p>4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p> <p>(1)学校関係者評価の基本方針 学校関係者としてトレーナー業界、フィットネス業界の企業様や卒業生、地域住民の方と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。 学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公開する。</p> <p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)教育理念・目標</td><td>(1)教育理念・目標</td></tr> <tr><td>(2)学校運営</td><td>(2)学校運営</td></tr> <tr><td>(3)教育活動</td><td>(3)教育活動</td></tr> <tr><td>(4)学修成果</td><td>(4)学習成果</td></tr> <tr><td>(5)学生支援</td><td>(5)学生支援</td></tr> <tr><td>(6)教育環境</td><td>(6)教育環境</td></tr> <tr><td>(7)学生の受け入れ募集</td><td>(7)学生の受け入れ募集</td></tr> <tr><td>(8)財務</td><td>(8)財務</td></tr> <tr><td>(9)法令等の遵守</td><td>(9)法令等の遵守</td></tr> <tr><td>(10)社会貢献・地域貢献</td><td>(10)社会貢献・地域貢献</td></tr> <tr><td>(11)国際交流</td><td>(11)国際交流</td></tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3)学校関係者評価結果の活用状況 学校関係者評価委員会にて頂いた意見を、定期開催の担任会議にて共有し即座に生徒指導に生かせるよう共有。 また年3回行う全職員が集まる全体会議でも内容を共有し統一した生徒指導を行っている。</p> <p>(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">平成30年4月1日現在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>星野 義倫</td> <td>株式会社ルネサンス 教育研究チーム 主任</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日</td> <td>関係企業</td> </tr> <tr> <td>園山 忠</td> <td>有限責任事業組合 オフィス園山 代表</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日</td> <td>関係企業</td> </tr> <tr> <td>太田 亮一</td> <td>飛鳥未来高等学校 横浜キャンパス キャンパス長</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日</td> <td>高校関係</td> </tr> <tr> <td>山口 智代子</td> <td></td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日</td> <td>地域住民</td> </tr> <tr> <td>鈴木 拓矢</td> <td>フリーランスインストラクター</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日</td> <td>卒業生</td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等</p> <p>(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成29年8月公表 http://www.sanko.ac.jp/vokohama-sports/pdf/kankeisyahyouka_vokohama.pdf</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標	(2)学校運営	(2)学校運営	(3)教育活動	(3)教育活動	(4)学修成果	(4)学習成果	(5)学生支援	(5)学生支援	(6)教育環境	(6)教育環境	(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集	(8)財務	(8)財務	(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守	(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献	(11)国際交流	(11)国際交流	名前	所属	任期	種別	星野 義倫	株式会社ルネサンス 教育研究チーム 主任	平成30年4月1日～平成31年3月31日	関係企業	園山 忠	有限責任事業組合 オフィス園山 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日	関係企業	太田 亮一	飛鳥未来高等学校 横浜キャンパス キャンパス長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	高校関係	山口 智代子		平成30年4月1日～平成31年3月31日	地域住民	鈴木 拓矢	フリーランスインストラクター	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																																																
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標																																																
(2)学校運営	(2)学校運営																																																
(3)教育活動	(3)教育活動																																																
(4)学修成果	(4)学習成果																																																
(5)学生支援	(5)学生支援																																																
(6)教育環境	(6)教育環境																																																
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集																																																
(8)財務	(8)財務																																																
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守																																																
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献																																																
(11)国際交流	(11)国際交流																																																
名前	所属	任期	種別																																														
星野 義倫	株式会社ルネサンス 教育研究チーム 主任	平成30年4月1日～平成31年3月31日	関係企業																																														
園山 忠	有限責任事業組合 オフィス園山 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日	関係企業																																														
太田 亮一	飛鳥未来高等学校 横浜キャンパス キャンパス長	平成30年4月1日～平成31年3月31日	高校関係																																														
山口 智代子		平成30年4月1日～平成31年3月31日	地域住民																																														
鈴木 拓矢	フリーランスインストラクター	平成30年4月1日～平成31年3月31日	卒業生																																														

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドラインに則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に対し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。

また入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資することとする。キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等の

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2)各学科等の教育	●三幸学園の教育●学科・専攻紹介●資格・就職
(3)教職員	●講師紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●インターンシップ●各種ボランティア
(5)様々な教育活動・教育環境	●施設紹介●特別ゼミ●企業・地域コラボレーション
(6)学生の生活支援	●サポートシステム●学生寮・一人暮らし
(7)学生納付金・修学支援	●募集学科・学費●学費サポート制度
(8)学校の財務	●監事監査報告書●資金収支計算書
(9)学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程健康スポーツ科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			身体の基礎科学	運動指導を行う上で、身体の構造と機能に関する知識は欠かせません。この授業では、身体運動のしくみと運動による身体の生理的变化を学習していく。	1通	70	4	○			○			○		
○			機能解剖学	ヒトの動きを考える時には解剖学的な知識が欠かせません。この授業では骨格筋、骨・関節、腱、靭帯の構造と機能について学習していく。	1通	70	4	○			○				○	
○			スポーツ栄養学	栄養学の基礎を理解し、運動指導において必要な栄養と食事を理解する。食事の大切さを知り、その大切さをアドバイス出来るようにし、自らの食生活を改善出来るようになる。	1前	34	2	○			○			○		
○			測定評価とプログラミング	運動指導を行う上で、指導対象者の現状把握は欠かせません。この授業では、主に体力要素の測定と評価について学習していく。	1後	36	2	○			○				○	
○			運動障害の予防と応急処置	運動指導を行う上で、行動を促したり、動機づけするための知識・技術は欠かせません。この授業では、行動への理論やモデルおよび技法について学習していく。	1通	52	3	○			○				○	
○			サービス業の基礎知識	サービスを提供する上で、相手に好印象を与えることのできる接客・接客は欠かせません。この授業では、立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることのできる接客・接客の理論を学習していく。	1前	34	2	○			○			○		
○			未来デザインプログラムⅠ	「7つの習慣」を基本とし、社会人として成長していく必要不可欠な基本的要素を学ぶ。	1通	35	2	○			○			○		
○			トレーニング理論Ⅰ	トレーニングを指導する上で、各種トレーニングの理論は欠かせません。この授業では、トレーニング目的に応じて合理的・効率的にトレーニングを進めていくための実践理論について学習していく。	1通	35	2	○			○			○		
○			コーチング理論	運動指導を行う上で、相手の目標達成を支援するための技術は欠かせません。この授業では、顧客の目標達成を実現するためのかわり方について学習していく。	1後	36	2	○			○			○		
○			トレーニング実践Ⅰ	トレーニングを指導する上で、実技技能（デモンストレーション能力）は欠かせません。この授業では、ストレングストレーニングの正しい実施方法と正しいトレーニングフォームを学習していく。	1通	70	2			○	○			○		
○			トレーニング指導実践Ⅰ	トレーニングを指導する上で、実技技能（デモンストレーション能力）と知識は欠かせません。この授業では、他者へ指導していただくことで、これまでに学んだ実技技能と知識の定着を図ると共に、現状の定着状況が明らかになることにより、何が必要かを自分自身で学習していく。	1通	70	3			○	○			○		
○			運動指導の心理学	運動指導を行う上で、行動を促したり、動機づけするための知識・技術は欠かせません。この授業では、行動への理論やモデルおよび技法について学習していく。	1後	36	2	○			○			○		
○			コミュニケーショントレーニング	顧客や職場のスタッフと良好な人間関係を築き業務を円滑に遂行するためにコミュニケーション技術は欠かせません。この授業では、コミュニケーションの本質を理解し、集団の中で効果的に議論するための技術を学習していく。	1通	70	4	○			○			○		
○			プレゼンテーション	コミュニケーション能力を向上させる。また、プレゼンにおけるパワーポイントの作成スキルも学習する。	1通	35	2	○			○			○		

○	スイミング実践 I	水の特性を理解しながら、水泳の技能を高めることで、幅広い対象者へ運動指導ができるようになります。この授業では、水の特性と4泳法を学習していく。	1後	36	1				○	○										
○	グループエクササイズ指導実践 I	運動指導を行う上で、集団指導を行うための知識・技術および楽しさの提供は欠かせません。この授業では集団指導を行うための知識・技術や楽しく運動するための要素である、音楽に合わせて行う指導等、グループエクササイズに必要な技術を学習していく。	1通	106	3				○	○										
○	サービス接遇	サービス接遇を理解し、相手に対して好印象を与える立ち居振る舞い、言葉遣いなどを理解し、実践できるようになる。	1後	36	2	○				○										
○	グループエクササイズ指導実践 I	運動指導を行う上で、集団指導を行うための知識・技術および楽しさの提供は欠かせません。この授業では集団指導を行うための知識・技術や楽しく運動するための要素である、音楽に合わせて行う指導等、グループエクササイズに必要な技術を学習していく。	1後	36	1				○	○										
○	サッカー実技 I	サッカーコーチを目指す上で基礎技術の習得は必要不可欠である。この授業では基礎技術の確認・習得を目指す。また、基礎技術を習得していく段階で、指導する際のポイントを確認する。	1前	34	1				○		○									
○	サッカー実技 II	サッカーの楽しさを伝えつつ、攻撃と守備、ゲームを支えるテクニックやコーディネーション、ゴールキーパーの技術といったゲームを作り上げていく上で必要となる基礎的トレーニング方法を学ぶ。	1後	36	1				○		○									
○	サッカー指導 I	サッカーコーチとして理想の指導者になるべく指導理論を身につけることは重要なことである。JFAの理念をベースに指導者としての基本的な考え方・理論を学ぶ。	1前	34	1				○		○									
○	サッカー指導 II	U-12年代にとってテクニックを中心に基本を大きくしていくことは必要不可欠である。ゴールを奪う楽しさやゴールを守る楽しさが伝えられるよう、目的を持ったサッカー指導の基礎技術を身につける。	1後	36	1				○		○									
○	テニス実技 I	テニスコーチになる為に、各ショットを構成する局面構造を理解し、戦術を知る。	1前	34	1				○		○									
○	テニス実技 II	テニスコーチになる為に、実技を行いながら、バイオメカニクス・生理学・栄養学の側面からもテニス技術を理解し習得をする。	1後	36	1				○		○									
○	テニス指導 I	テニスコーチになる為に、実技を行いながら、テニスのルール・技術、マーケティング、安全管理について学ぶ。	1前	34	1				○		○									
○	テニス指導 II	テニスコーチになる為に実技を行いながら、ルール・技術、マーケティング、安全管理について学ぶ。	1後	36	1				○		○									
○	トレンドエクササイズ I	スポーツに関わる仕事に就く上で、ベーシックなものから現在のトレンドまで様々なエクササイズを知り、体験することは重要です。この授業では、様々なエクササイズの体験を通し、運動指導の現状を学習していく。	1前	34	1				○	○										
○	トレンドエクササイズ II	スポーツに関わる仕事に就く上で、ベーシックなものから現在のトレンドまで様々なエクササイズを知り、体験することは重要です。この授業では、様々なエクササイズの体験を通し、運動指導の現状を学習していく。	1後	36	1				○	○										
○	スポーツマネジメント I	スポーツが商品として様々な形で消費の対象となったスポーツ産業をマネジメントの観点から学ぶとともに、その産業においてスポーツを消費する人々についても学ぶ。	1前	34	2	○				○										
○	スポーツマネジメント II	スポーツ産業の主要な業態におけるマネジメントの基礎を学ぶとともにビジネスとしてのプロスポーツのマネジメントの特徴を学ぶ。	1後	36	2	○				○										
○	ダイビング実践 I	ダイビング基礎としてOWDに関する知識を習得する事、レクリエーションダイビングとしてのAOWを学ぶ事、レスキューダイバーとして必要な知識を身につける事。	1前	34	2	○				○		○								

○	サッカー業界論	サッカー指導者にとって、技術指導だけでなくサッカーに関わる多くの知識と、サッカー指導者として必要な情報、業界の現状を知っていることは重要なことである。日本サッカー界が目指す未来を理解する。	2前	34	2	○					○	○	
○	サッカークラブのマネジメント	日本のスポーツの基盤は地域スポーツクラブである。その中のサッカークラブ運営に欠かせないマネジメントについて、クラブ設立から運営に関わる知識を学ぶ。	2後	36	2	○					○	○	
○	サッカー実践	身につけたコーチングスキルやテクニックを実践することは重要なことである。実際のスクール生に対してコーチングを行うことで、個々にあった指導法を学ぶ。	2後	54	1					○	○	○	
○	テニス指導理論と実践Ⅰ	テニスコーチになる為に、テニススクールに就職した際に直面する状況を踏まえ、その対策をするPLAY+STAYの理解と実践をしていく。	2通	158	5					○	○	○	
○	テニス指導理論と実践Ⅱ	テニスコーチになる為に、テニススクールに就職した際に直面する状況を踏まえ、その対策をするPLAY+STAYの理解と実践をしていく。	2通	158	5					○	○	○	
○	テニス業界論	テニスコーチになる為に、テニスという競技を歴史から探り、日本テニス界の現状を知り、その社会的環境について理解する。指導者の現状について知り、ラケットやストリングについて知り、実際のプレーにそれがどう影響するかを知る。	2後	34	2	○					○	○	
○	テニス実践	テニスコーチになる為に、テニススクールに就職した際に直面する状況を踏まえ、対象者、レベルに合った指導方法を学ぶ。	2後	54	1					○	○	○	
○	イベントプランニング	人々とのコミュニケーションの媒体となるイベントの理解とイベントに関わり、イベントをスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施を学習していく。	2通	70	4	○					○	○	
○	スポーツマーケティングケーススタディ	スポーツに関わる消費者・生活者のニーズや欲求を満たすために意図された活動であるスポーツマーケティングについて、スポーツ特有の体感や感動を扱うスポーツイベントの実例を通して学習していく。	2通	70	4	○					○	○	
○	スポーツプロモーション実践	スポーツが社会や人々のライフスタイルに寄与する価値あるものとしてスポーツを普及・促進・発展させていくことを意味するスポーツプロモーションについて、生涯スポーツという観点から日本の各種スポーツ政策・施策を実例を通して学習していく。	2通	70	4	○					○	○	
○	モチベーション・マネジメント	本授業では他者のモチベーションコントロールにフォーカスをあて、理論とビジネスや学生生活などのシーンでの実践的活用方法を学ぶ。	2前	34	2	○					○	○	
○	スポーツ業界論	消費の対象としてスポーツを取り扱うスポーツ産業をマネジメントの観点から学習するとともに身近なスポーツの環境としての地域におけるスポーツの有り方をマネジメントの観点から学習する。	2前	34	2	○					○	○	
○	スポーツビジネス実践	コース専門科目の学習内容を踏まえて実務的な観点からスポーツビジネスの総合的な理解を深めていく。また「スポーツ・フィットネスクラブマネジメント技能検定3級」「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の内容から基礎実務を学習していく。	2後	54	2	○					○	○	

○	コミュニティスポーツ指導実践	スポーツ・レクリエーションを通じた住民の社会参加の機会から地域コミュニティ活性化を促すことを目的として、地域で比較的運動能力を問わず多世代で実施・展開できるレクリエーションプログラムやニュースポーツの実践から指導方法までを学ぶ。	2後	72	2						○	○				○
○	ダイビング特講	インストラクター試験に向けての知識の振り返りを行う。	2通	70	4	○					○					○
○	インストラクター特講	PADI ダイブマスター PADI オープンウォータースクーバインストラクターでのデモンストレーションスキルを学ぶ。	2通	70	2						○	○				○
○	水中生物とエコロジー	水中世界の生態系について学び、身近な環境問題を考えるとともに研究発表を行う。	2通	70	4	○					○					○
○	ダイビング施設の運営と管理	ダイビング施設の運営に関するノウハウを学ぶ。	2通	70	4	○					○					○
○	リスクマネジメント	ダイビングに関するリスクマネジメントとはなにか？法律システムについて学ぶ。	2通	35	2	○					○					○
○	潜水医学	ダイビング時に発生する潜水障害のついて学ぶ。 有効な処置を実施できるように様々な障害について学ぶ。	2前	34	2	○					○					○
○	気象・海洋学	快適なダイビングを実施するために気象・海洋学について学ぶ。 ダイビングに適した海況について学ぶ。	2前	34	2	○					○					○
○	ダイビング特演	インストラクター試験に向けての知識の振り返りを行う。	2前	34	2	○					○					○
○	スクーバダイビング実習Ⅱ	資格取得に関わる講習型実習。	2前	102	3											
○	スクーバダイビング実習Ⅲ	資格取得に関わる講習型実習。	2後	90	3						○					
○	関連施設実習Ⅱ	授業で得た知識・技術は現場で活用できてこそ意味を持ちます。授業で得たものを活かしつつ、「対人基礎力」、「対人自己基礎力」、「対課題基礎力」、「専門知識・技術」の4項目、10の力を伸ばしていけるようスポーツ現場での活動に取り組みます。	2前	102	3						○					○
○	総合演習Ⅲ	運動指導施設では、指導以外の様々な業務でも活躍が求められます。この授業では、「自分たちで運動施設を運営する実習」などを通して、実際のフィットネスクラブで行われている、企画・準備・運営について学習していく。	2通	70	4						○					○
合計				108科目			5789単位時間 (235単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>【履修方法】</p> <p>●各科目授業内テスト（実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施）の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。</p> <p>※履修前期、後期ともある教科についての評定は原則として前期、後期の評価合計を出し、それを2で割ったものを評定とする（原則四捨五入）。</p> <p>※上記の方法で評定が「1」となった科目（成績不良科目）は履修と見なさない。</p> <p>※また欠課時数が授業時数の1/3を越えた科目（出席不良科目）も履修と見なさない。</p> <p>【進級・卒業要件】</p> <p>教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績および性行を斟酌して認める。</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。